

初動対応

- ・台風第19号の来襲に先立ち、10月11日（金）に2回の災害対策本部会議を開催。日本の広い範囲で大雨や暴風、高波、高潮の恐れがあることから嚴重に警戒することを確認。
- ・13日（日）第3回、14日（月・祝）第4回、それ以降も災害対策本部会議を順次開催。被害状況や本省からの要請等に関する情報を共有し、速やかに専門家の派遣を行う体制を固めました。



災害対策本部会議の状況（10月14日）

土砂災害分野の活動状況 <群馬県富岡市内匠で発生した土砂災害の調査>

- ・台風第19号に伴う大雨によって、10月12日に群馬県富岡市内匠で甚大な土砂災害が発生しました。群馬県からの要請を受け、10月15日に土木研究所とともに砂防研究室長等2名を派遣し、現地調査を行い応急対策や警戒避難体制等について、富岡市長をはじめ群馬県及び富岡市の関係者に助言しました。



発生箇所の状況（10月15日）



影響範囲の確認（10月15日）



堆積状況の調査（10月15日）



富岡市長への調査結果の説明（10月15日）



記者会見の様子（10月15日）

下水道分野の活動状況

- ・台風第19号による記録的な大雨により、福島県内においても処理場2箇所、ポンプ場9箇所において浸水のため機能停止しました。
- ・これを受け、処理場・ポンプ場施設の応急対応状況の把握と応急対応に関する技術的なアドバイスを目的として、国総研による現地調査を10月23～24日に実施しました。

①派遣者（TEC-FORCE高度技術指導班）
下水処理研究室 山本研究官 松橋研究官
（本省下水道部、日本下水道協会、日本下水道事業団が同行）

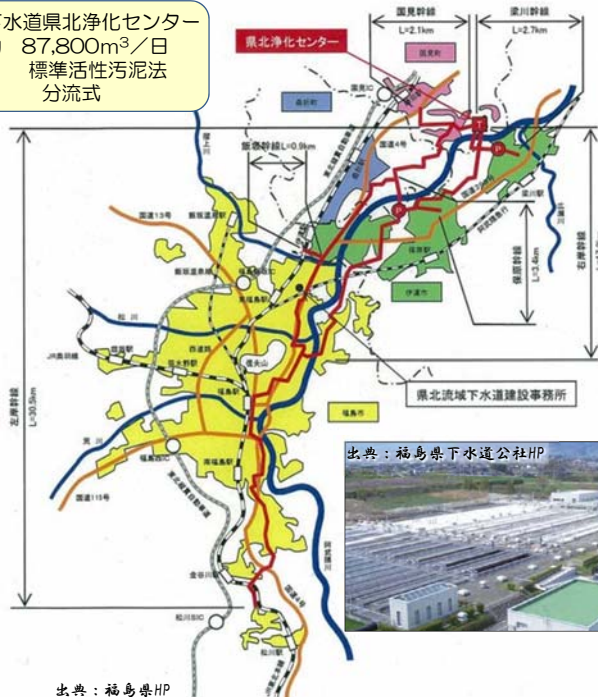
②期間
令和元年10月23日（水）～24日（木）

③派遣目的
通常運転に戻っていない処理場・ポンプ場施設の応急対応状況の把握と応急対応に関する技術的なアドバイス

④行程
23日 福島県庁にて被害の全容に関する打ち合わせ
【現地調査】 阿武隈川上流流域県北浄化センター
24日 【現地調査】 福島県本宮市、郡山市、いわき市各ポンプ場、郡山市真空式下水道

- ⑤状況
- 【阿武隈川上流流域下水道県北浄化センター】
 - ・場内水路を活用した消毒による緊急放流実施中。
 - ・最初沈殿池を活用した沈殿+消毒を27日より開始予定。
 - ・段階的な水質向上方策を検討中
 - ・下水処理場内の処理の困難な腐敗汚泥について濃縮、脱水方法について助言
 - 【郡山市 真空式下水道】
 - ・32世帯下水道使用不能、各戸のマスからバキューム車でくみ取りを実施
 - ・既存機器の点検中であるが使用不能の場合は側溝を活用した仮設配管による対策を助言
 - 【福島県下各市ポンプ場】
 - ・浸水により停止した施設を調査し、応急対応による排水能力や溢水の有無など周辺状況等を確認

阿武隈川流域下水道県北浄化センター
現有処理能力 87,800m³/日
水処理方式 標準活性汚泥法
排除方式 分流式



阿武隈川流域下水道県北浄化センターの水没状況
(10月13日)



阿武隈川流域下水道県北浄化センターの調査
(10月23日)



本宮市への復旧方針の技術相談
(10月24日)



本宮市汚水ポンプ場の被害状況確認
(10月24日)

河川分野の活動状況

・台風第19号による河川管理施設の被災は、東北地方、関東地方、北陸地方における堤防の決壊をはじめ、広域にわたって発生しました。国総研河川研究部は、被災原因の究明、復旧方法の検討を目的に、土木研究所、本省、地方整備局、県と連携して現地調査を実施しています。

●派遣・調査実績(令和元年11月21日 時点)

- ✖: 国管理河川決壊箇所
- ✖: その他の国管理河川調査箇所
- ✖: 都道府県管理河川決壊箇所
- ✖: その他の都道府県管理河川調査箇所

- : 国の委員会
- : 県からの要請
- : 個別調査

10月30-31日 個別調査
(福島河川研究室長他)
鳴瀬川水系・阿武隈川水系越水箇所

10月16日・11月7日
堤防調査委員会(東北地整)
(服部水防災システム研究官)
鳴瀬川水系吉田川(大郷町)
阿武隈川水系阿武隈川(須賀川市)

11月8日 堤防調査委員会(宮城県)
(服部水防災システム研究官)
阿武隈川水系新川・内川・五福谷川(丸森町)

10月29日・11月12日 個別調査
(服部水防災システム研究官他)
阿武隈川水系新川・内川・五福谷川(丸森町)

10月18日・11月17日 堤防調査委員会
(諏訪河川構造物管理研究官)
(関東地整)
久慈川水系久慈川(常陸大宮市)
那珂川水系那珂川(那珂市、常陸大宮市)

10月23日・31日 茨城県要請
(諏訪河川構造物管理研究官他)
久慈川水系久慈川(大子市)
二級河川花園川(北茨城市)
久慈川水系里川(東河内市、常陸太田市)
久慈川水系浅川(常陸太田市)
那珂川水系藤井川(水戸市)
那珂川水系田野川(水戸市)

10月24日 個別調査
(福島河川研究室長他)
久慈川水系久慈川(常陸大宮市)
那珂川水系那珂川(那珂市、常陸大宮市)

10月15日・11月13日
堤防調査委員会(北陸地整)
(福島河川研究室長)
信濃川水系千曲川(長野市)
信濃川水系千曲川(上田市)

10月25-26日・30-31日 個別調査
(福島河川研究室長他)
信濃川水系千曲川越水箇所等

10月17日・11月17日
堤防調査委員会(関東地整)
(諏訪河川構造物管理研究官)
荒川水系越辺川(川越市、東松山市)
荒川水系都幾川(東松山市)

10月17日 埼玉県要請
(諏訪河川構造物管理研究官他)
荒川水系新江川・都幾川(東松山市)

10月17日・25日 個別調査
(諏訪河川構造物管理研究官他)
荒川水系新江川・都幾川(東松山市)

国 7河川
県 13河川



11月2日 千葉県要請(※台風第21号)
(諏訪河川構造物管理研究官)
二級河川養老川(市原市)
二級河川内田川(市原市)



鳴瀬川水系吉田川の堤防決壊状況
(10月16日)



千曲川水系千曲川の堤防決壊状況
(10月15日)



吉田川堤体状況の調査
(10月16日)



千曲川復旧方針の検討
(10月15日)

道路構造物分野の活動状況

- ・ 台風第19号では、橋の下部構造の転倒や傾斜、道路周辺の斜面崩壊等が広範囲で発生し、幹線道路も長期間にわたって通行止めとなる等、道路の性能に重大な影響が生じました。道路構造物研究部では、道路管理者からの要請を受けて被災状況の把握とその原因に関する現地調査を土木研究所と連携して行い、応急復旧の技術支援に全力で取り組みました。



写真：関東地方整備局

橋脚が沈下した国道20号法雲寺橋（山梨県大月市：10月13日）

蓄積してきた技術的知見を活かして早期復旧のための助言を実施



法雲寺橋の調査
(10月21日)



調査結果の記者会見
(10月21日)



橋台が転倒した海野宿橋（長野県東御市）
(10月17日)

建築分野の活動状況 <千葉県と東京都島嶼部で発生した建築物等の強風被害の調査>

- ・台風第15号の強風により9月9日に千葉県内房地域と東京都島嶼部で、また台風第19号に伴って発生した竜巻により10月12日に千葉縣市原市で、それぞれ建築物等の甚大な被害が発生しました。建築研究部では、建築研究所と共同ですみやかに現地調査を行い、木造住宅や低層店舗等の屋根や外装材等の被害形態を把握しました。



木造住宅の小屋組の飛散
(9月12日)



低層店舗の屋外に面する建具等の損壊
(9月12日)



ブロック塀の倒壊
(9月12日)



住宅の屋根や開口部等の損壊
(10月15日)



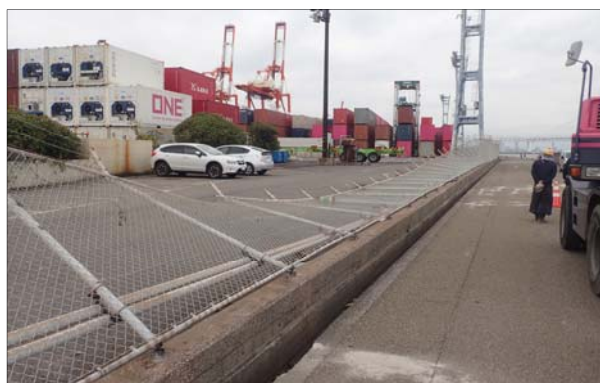
低層店舗の屋外に面する建具等の損壊
(10月15日)



住宅内部の被害
(10月15日)

港湾分野の活動状況

- ・台風第15号による被災状況について横浜港本牧ふ頭地区及び金沢地区(福浦及び幸浦)の現地調査を行いました。それぞれの地区で、高波により被災を把握しました。



本牧ふ頭地区コンテナターミナル被災状況
(9月14日)



金沢地区(福浦)東側護岸上部工の被災状況
(9月14日)

港湾施設の被災状況については、受付ロビーの「令和元年度の主な取り組み」ポスター展示で詳細を紹介しております。

●派遣・調査実績(令和元年11月21日 時点)

- : 国の委員会
— : 県からの要請
— : 個別調査

国 7河川
県 13河川

11月2日 千葉県要請(※台風第21号)

(諏訪河川構造物管理研究官)
二級河川養老川(市原市)
二級河川内田川(市原市)

11月8日 堤防調査委員会(宮城県)
(服部水防災システム研究官)
阿武隈川水系新川・内川・五福谷川(丸森町)

10月18日・11月17日堤防調査委員会
(関東地整)
(諏訪河川構造物管理研究官)
久慈川水系久慈川(常陸大宮市)
那珂川水系那珂川(那珂市、常陸大宮市)

10月24日 個別調査
(福島河川研究室長他)
久慈川水系久慈川(常陸大宮市)
那珂川水系那珂川(那珂市、常陸大宮市)